第３号様式

助成対象活動報告シート

団体名：　かんでら monzen 亭

１ 助成を受けて実施した活動

※ 活動の様子がわかる写真(数枚)を入れ込んで記入してください。

今回の助成金では、愛知淑徳大学の学生たちとの協働で、現代版寺子屋の持続的な運営を支えるために、だれもが簡単に使える、アナログ式の開催告知カレンダー機能を兼ねた予約システムを制作しました。

制作にあたっては、こちらから必要とする機能を伝えた上で、2021 年 1 月 6 日学生達から企画プレゼンテーションをしてもらいました。

コロナ渦ではありましたが、プレゼンテーションには、かさてらこやの利用者の方にも参加してもらい、利用者視点から学生たちの提案に意見を出してもらいました。

これらの意見を受けて学生たちはアイデアを練り直し、制作に入りました。

取付工事も学生達が自ら施工しました。

看板には、かさてらこやのスケジュールカレンダーだけではなく、このビルに入る他の機能や街の情報も一緒に提供できるようなものにしました。

デザイン的には、学生達のアイデアで、屋上でミツバチを飼っていることをアイコンにして、六角形の組合せとすることで、通りがかりの人の目を引くものとしました。

※ この様式は公開されます。

また、この施設を多くの人たちに利用してもらうため、広報用のチラシ 3,000 枚を作成し、毎月発行している手づくり新聞と合わせて地域内に配布しました。

活動の成果および目標達成度合い

開催告知機能付きの予約システムがきちんと運用され、利用者が有効にこれを活用できることと、その結果として定期的に開催される講座を１０本以上確保することを目標としていました。また、広報として、作成したチラシ３，０００枚以上を配布しています。その結果、新たに３人の方が講座を開いてくれることになりました。
その中でも、特筆すべきは、塾の講師をやっている方が、不登校児向けの寺子屋を毎週金曜日に開催してくれることになったことです。自分が学生の頃に寺子屋でお世話になった経験から、今度は自分が提供する側になるということで、かさてらこやで開催してくれることになりました。
新型コロナの影響で講座やイベント等を開催できない場合に備えて、YouTube チャンネル“かさてら子”を立ち上げました。宣伝媒体としてのみならず、今後はかさてらこやの配信スタジオとしての活用も進めていきます。

3 活動により見えた課題

講座を開く際の広報手段がまだまだ限られているため、せっかく内容のいい講座を企画しても、十分な参加者を集められていないことが課題です。
今回制作したカレンダーボードをより見やすいものにするために、書き方やアイコンなどのビジュアル的に表現できるようなものに改善していく必要があると感じています。

4 今後の活動等の展望

１つでも人気の講座を作ることで、そこからかさてらこやの存在や使い方を知ってもらうことで、自らも講師をやってみようという人が増えていくことにつながることを目指していきます。
そのためにも、新たに始まる寺子屋をみんなで応援して、成功例にしていきたいと考えています。

※ 各欄のサイズ変更は可能ですが、２ページを超えないように作成してください。
※ 用紙の大きさ日本産業規格 A4 とする。

※ この様式は公開されます。

第３号様式

助成対象活動報告シート

団体名：　平針南学区自治会

1 助成を受けて実施した活動

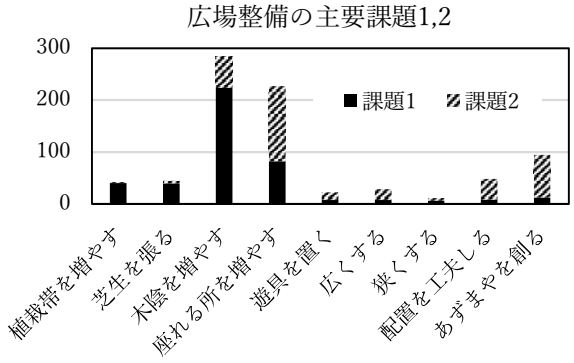
■　県営住宅の屋外環境アンケート調査

・配布世帯：434　世帯回収率：81％

・敷地内に整備された緑地、歩行環境、広場についての不満は少ない。

・広場の重要性は認識されている。

・広場の維持管理上の課題もあるが、特に木陰を増やす、座れる場所を増やすことが求められている。



■　検討会および Zoom ミーティングの実施

・第１回検討会：今年度の活動内容、居場所の配置方針の確認

・第２回検討会：アンケート結果、居場所整備方式、地区計画の検討

・第３回検討会（Zoom）：シンボルエリアの方向、地区計画の方向、構想（普及版）の扱い

第２回検討会の様子

■　構想実現性の検討

【まちの居場所】

・サードプレイスとなる居場所整備への社会福祉法人の関心は高く、関係団体ヒヤリングによると、収益部門と抱き合わせで公益部門の整備の可能性がある。（実例：もやいの家瑞穂）

もやいの家瑞穂

【地区計画】

・幹線道路沿線については、生活利便施設の立地を意図する用途地域変更は可能で、地区計画でさらに良好な環境形成のための規制も可能とのこと。

【良好な住宅市街地形成】

・生活利便性や災害安全性が高い、屋外環境やコミュニティが良好という地域環境に対する住宅ニーズは高く、このことが、良好な住宅地開発を進める開発事業者のモチベーションを高める。

■　まちづくり構想（普及版）等の作成

・実現性という視点から当初構想案をブラッシュアップし、構想（普及版）および全世帯配布用のパンフレットを作成・印刷した。

※ この様式は公開されます。

2 活動の成果および目標達成度合い

■ **アンケート調査結果**

・アンケートにより、県営住宅敷地内に整備された広場について、改善方向を示すことができ、県営住宅の建て替えの参考ということで、県にその他の結果も含めて提出した。

■ **検討会の実施**

・第 1 回、第 2 回検討会は会議室で実施できたものの、第 3 回はコロナ禍の影響により、Zoom ミーティングで議論を進めた。

・なお、第 1 回はコロナの影響で開催延期を強いられたが、その間に学識者と Zoom ミーティングで議論を進めることができ、第 3 回検討会（Zoom）については、事前に会議資料を配布し臨んだので、予定していた成果をあげることができた。ただ、事務局ペースで議論が進行する傾向があり、議論の深まりは若干不十分であったように思う。

■ **居場所の運営**

・自治会主体の空き店舗利用した居場所運営の試みは、コロナ禍のため未実施である。

・ただ、今年度の検討を進める中で、居場所の整備主体を明確にして運営体制を議論する方が現実的という見解になり、運営は自治会主体よりノウハウのある NPO 等の方が妥当と判断した。

■ **構想の実現性**

・県、市との意見交換をとおして都市計画変更等の可能性を確認した。また、居場所整備に関心ある民間団体や住宅開発事業者のヒヤリングを踏まえて、実現性をある程度加味した構想内容にブラッシュアップすることができた。

・さらに、構想提案の背景となった専門的な関連資料をまとめることもできたので、今後の関係機関との協議に活用していきたい。

3 活動により見えた課題

■ **県と継続的な協議**

・今回提案する構想、特に、シンボルエリアの整備の方向性については、県と認識を共有することが不可欠。

・余剰地の今後の扱い方については紆余曲折が想定されるが、県と地域が継続的に協議していく関係づくりが重要。

■ **公募要件の組み立て**

・民間開発を進める場合、事業者公募の要件がまちの将来を大きく左右する。このため、要件を組み立てる過程で、上記の協議する関係が重要な役割を果たす。

・この場合、あらかじめ民間の意向をサウンディングしておくことが重要である。例えば、県、地域、民間そして中立的な立場の学識者を交えたオープンな議論の場を設置することが有効と考えている。

4 今後の活動等の展望

■ 地域の思いをまとめた構想を自治会から県に提示。

■ 構想の実現に向け、県および市と継続的な協議。

■ 居場所に関心を示す民間事業者ヒヤリングの実施。

※ この様式は公開されます。

第３号様式

助成対象活動報告シート

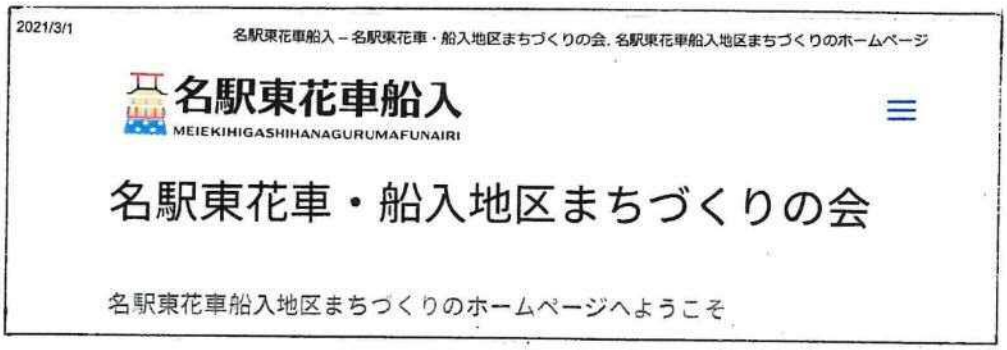
団体名：名駅東花車･船入地区まちづくりの会

1 助成を受けて実施した活動

※ 活動の様子がわかる写真(数枚)を入れ込んで記入してください。

○構想づくりのためのツール整備(ホームページの作成)

・WEB サイトのトップページ(一部)



・ホームページでは次のような内容を掲載しています。

○名駅東花車･船入地区まちづくりの会の概要（所在,活動目的,主な活動,体制,対象エリア,関係資料(pdf 版)）

○最新情報として（①第１回勉強会の開催報告ーこの中で日本福祉大学吉村教授の講演要旨も発信しています。②第１回会員総会の開催報告　③新型ｺﾛﾅｳｲﾙｽによる勉強会等の中止のお知らせ）

○問い合わせ先

・URL アドレスは　https://meieki5hunairi.com/　です。

○勉強会(第１回)の開催

○勉強会の内容ー本勉強会では日本福祉大学の吉村教授に講演して頂きました。その中で、

① コロナ禍を経てまちづくり活動においてもこれからは行動原理が違ってくる。

② 長続きする活動は「楽しさ」が主体となるもの。

③ 「計画⇒実行」の時代から今後は緩やかな目標で現場合わせしながら進めるやり方が求められるのでは。

④ 思いついたところで「やってみよう！」の方法もあるのでは。

など、今後の活動や進め方への貴重な助言をいただき、最後に参加者が意見や感想を述べ合いました。

※ この様式は公開されます。

2 活動の成果および目標達成度合い

○活動組織の拡充について：活動組織の会員拡大活動では、この地域まちづくり活動助成を採択して頂いたことで、「意義ある活動」をアピールでき、当初の会員(11 名)が約 4.5 倍(49 名)へ組織会員を拡大することができました。

①構想づくりのためのツール整備：コロナ禍の影響もあって作成、開設は予定より遅れましたが、ツール(ホームページ)はほぼ完成できました。これまで通信や広報は個別な手段(電話や郵便等)しかなく、デジタル社会に対応しホームページを作成できたことで、情報の発信,受信機能が革新され、構想づくり等関係活動情報の容易な共有と活動の一層の促進が図れることになりました。一方で、評価意見では 1)地域の歴史的資源情報のアーカイブや他言語対応での情報発信 2)花車ビルの建て替え等地区の課題当事者としてコミュニケーションを高めること　3)ホームページを含めた広報活動の全体像についてまちづくりの会で議論、実践していくこと等をツール整備に伴って期待して頂いており、それらについては第 2 回勉強会や地域つながり活動イベントの実施等による内容、成果も踏まえて活用展開を図る予定でいましたが、これら活動は下記のとおり見送らざるを得なくなったため、やむなく多くは継続課題としています。(※ツール整備の目的(期待部分対応含め)8 割程度達成しました。)

②勉強による推進：第 1 回の吉村教授による講演から、1)構想づくり活動には、あらためて地域の参加者が「楽しく」参加ができるやり方、進め方が必要　2)「不確実な時代」を背景に、緩やかに人々の思いを受け止めて、緩やかな目標やビジョンのもとで、ステップアップさせていくやり方も必要　･･･など、コロナ禍の現代、これらの視点が益々重要となることを参加者で勉強することができ、本地域の今後の具体的活動の在り方と目標の設定に関して、大きな開催成果がありました。なお、第 2 回で予定していた「課題発掘のためのまち歩きやワークショップ」については、期間内の実施に最後まで努力しましたが、コロナ禍で不要不急の外出自粛が叫ばれるなか、代替となる活動含め実施を見送らざるを得ませんでした。(※勉強会(第 1 回)の目的は、第 1 回が出来たことで 5 割程度達成しました。)

③地域つながり活動に関するイベント：予定していた活動は、期間内での実施に最後まで努力しましたが、上記と同様、コロナ禍で不要不急の外出自粛が叫ばれるなか、代替のなる活動含め実施を見送らざるを得ませんでした。

(※助成対象活動全体として、本期間中の目標は 6～7 割程度達成できました。)

3 活動により見えた課題

○構想づくりのためのツール整備上から：ホームページの活用展開では、構想づくり諸活動の進展とともに、前記の継続課題としている事項の早期な取り組みが課題と考えています。

○勉強会の推進から：第 2 回目以降の開催に当たっては、参加者個別の自由な意見表明や参加する楽しさが感じられるあり方、進め方が、今後特に必要かつ重要になるものと考えています。また取り組みテーマやジャンルの区分け、当面的にはステップアップの具体的な目標の設定(緩やかなもの)なども必要だと気づかされました。

○優先事項として：上記の基本･原則的事項とあわせて、特に優先すべき事柄として、1)花車ビル三館各管理組合の早期な参加を得ること、2)これまで取り残されてきた道路や街区の都市基盤に関する整序の方法等について、課題の共有化と具体的議論を推進すること、が必要と考えています。

4 今後の活動等の展望

まちづくりの会の当面の方針は、組織を拡充させ地域内外での認知度を高めていくこととともに、地域つながり活動を含め構想づくりへの準備に必要な方向へ、議論を深め気運を醸成することです。ホームページの完成は情報の発信･受信ツールとして今日的に有用な手段を持てたことで、会の方針に基づく諸活動の一層の促進に大いに役立つものと考えています。また、勉強会や地域つながり活動イベントについては、前記のとおりやむなく一部実施を見送ることになりましたが、コロナ禍収束の後あらためて実施していく予定であり、その先には地域として地権者、住民等の交流の促進とともに、新しい行動原理に基づく構想づくりに関する議論の進展と深化が大いに望めるものと考えています。

※ 各欄のサイズ変更は可能ですが、2 ページを超えないように作成してください。

※ 用紙の大きさ日本産業規格 A4 とする。

※ この様式は公開されます。

第３号様式

助成対象活動報告シート

団体名：　金城ふ頭まちづくり協議会

1 助成を受けて実施した活動

※ 活動の様子がわかる写真(数枚)を入れ込んで記入してください。

(1)活動全体のデザイン

・既存アンケート分析により、類似施設との比較や金城ふ頭の特徴を概観

・活動全体を話し合い、当初予定になかった、ウェブアンケートの実施を追加

(2)ウェブアンケート

〇実施：10 月 20 日（火）～12 月 20 日（日）

〇回収数：504 件

〇アンケート内容

・金城ふ頭の認知、来訪意欲、来訪経験

・各施設のリピート度合や回遊性

・各施設について、金城ふ頭について（おすすめ度（0～10)、その理由）

(3)グループインタビュー

〇実施：12 月 9 日（水）

〇被験者：小学生等の子どものママ 4 名

〇インタビュー内容

・金城ふ頭のイメージ（残念/良い）

・家族とこの 1 年で行った常設の施設

・金城ふ頭の施設について（おすすめ度（0～10)、その理由）

(4)ワークショップ

〇実施：2 月 4 日（木）

〇参加者：18 名

・まち協会員：10 名

・外部：8 名（うち子育て世代 4 名、学生 3 名）

〇4 つのグループに分かれ、意見交換

・アンケート結果等から想像できる金城ふ頭の特徴

(金城ふ頭の将来開発についての説明を挟む)

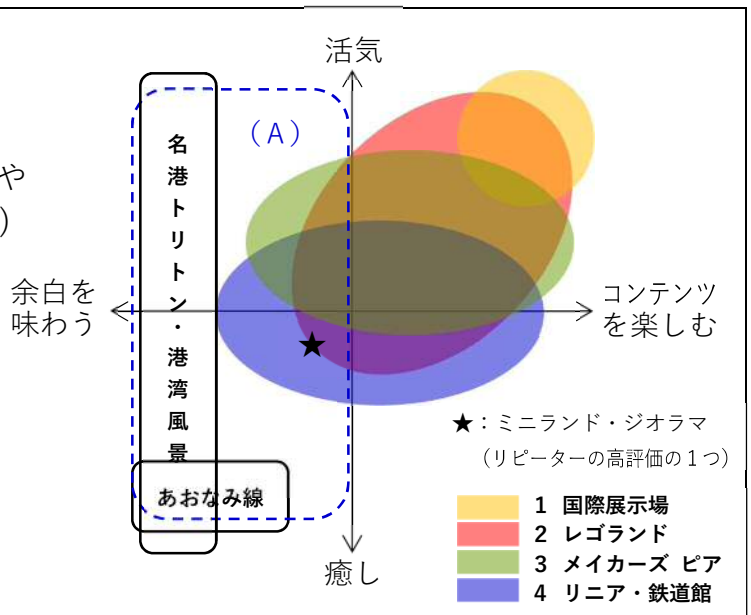
・自分が思う金城ふ頭のワクワク

・来訪アイデア

※ この様式は公開されます。

2 活動の成果および目標達成度合い

・子育て世帯が家族で出かける先を決めるときの要点を推測
・出かける先の決め手となるのに、金城ふ頭あるもの(強み)/ないものやあっても知られていないもの(弱み)を抽出
・熱烈なファン層（リピーター）の評価が高いものが浮かび上がった
・訪れたくなる地区のイメージ形成（まちづくり）に向けた課題が浮かび上がった。



3 活動により見えた課題

・（A）領域の認知度の向上
・エリア全体の回遊性（相互誘客）の向上

4 今後の活動等の展望

・採取した意見や分析は、今後、有効な来訪促進策に磨き上げたり、地区のイメージを形成はかるための素材であるため、この素材をベースに会員間で話し合っていくことが有効ではないか、という意見がでた。
・今後は、会員間で話し合いを重ね、まちづくりの方向性を見極めながら、まちづくり構想として共有化をはかる活動が必要

※ 各欄のサイズ変更は可能ですが、２ページを超えないように作成してください。
※ 用紙の大きさ日本産業規格 A4 とする。

※ この様式は公開されます。

第３号様式

助成対象活動報告シート

団体名：　植田東学区連絡協議会

１ 助成を受けて実施した活動

※ 活動の様子がわかる写真(数枚)を入れ込んで記入してください。

活動記録

令和２年

６月 29 日 アプリ委託発注(導入費用、アプリ改修委託)

８月 ６日　結ネットモデル町内会説明資料印刷発注 ※1

８月 16 日 井口二丁目町内会役員へインストール方法説明資料配布

８月 19 日 植田ヒルズ町内会役員へインストール方法説明資料配布

９月 16 日 植田ヒルズ町内会役員へのインストールサポート

11 月 ２日 インストール説明資料印刷発注 ※2

11 月 14 日 モデル２町内の一般会員用インストール説明資料及び結ネットモデル町内会説明資料配布依頼

12 月 27 日 町内会員に安否確認訓練の説明(結ネットで連絡)

12 月 30 日 安否確認訓練

令和３年

１月 16 日 モデル町内会アンケート依頼

２月 ６日　アンケート回収締め切り(組長提出)

２月 13 日 町内会長からアンケート調査票回収

２月 15 日～25 日　アンケート入力・集計・分析

２月 26 日～３月３日　活動のまとめ

※1, 2 は印刷物作成

メニュー画面

※ この様式は公開されます。

2 活動の成果および目標達成度合い

⑴ アプリ初期設定及び改修

モデル 2 町内会の初期設定(メニュー及び利用者 ID 登録)、役員会議室の新設のためのアプリ改修を委託実施した。役員または役員・組長間の意見交換(掲示板機能)が行えるようになり、日常の相談がしやすくなった。

⑵ 町内会役員、一般会委員へのアプリインストール

説明資料を印刷、配布し各自でインストールしてもらった。インストール状況は、役員 79.3%、一般会員 27.9%と説明会なしにも関わらず一定進んだと言える。

⑶ 安否確認訓練

結ネットで 1 回操作方法を説明しただけで 58.8%が回答した。

⑷ アンケート調査

アンケート調査(回収率 28.6%)で使い勝手やスマホの活用について意見を聞いた。

3 活動により見えた課題

⑴ 情報の発信側

アンケートによると、行事案内、行事の中止・変更案内、行政からの情報、学区内問題箇所の通報のニーズが高い。学区の情報の一部、及び行政の情報の電子化ができていない。町内会で活用しようとするとサポート体制の充実も必要である。

⑵ 情報の受信側

スマホ活用に賛同する意見が多いが、人により必要とする情報の違いもある。機能を絞っても費用をかけない方が良いという意見もある。

⑶ 災害時の安否確認

安否確認の補助手段として評価する意見は多い。また、問題箇所の通報機能についてもニーズが高いので今後検討していく必要がある。

4 今後の活動等の展望

スマホなど情報ツールの活用については肯定的な意見が多いが、どんなシステムで、どのような使い方をするのかについては、意見がまとまっていない。今後、町内会での検討を進めていくにあたり、学区連絡協議会としても情報提供などのサポートをしていきたい。

※ 各欄のサイズ変更は可能ですが、2 ページを超えないように作成してください。
※ 用紙の大きさ日本産業規格 A4 とする。

※ この様式は公開されます。

第４号様式

助成対象事業報告シート

団体名：宮の渡し・大瀬子地区まちづくり協議会

1 助成を受けて実施した事業

※ 団体が行った内容とコンサルタントが行った内容がわかるように記入してください。
また、事業の様子がわかる写真(数枚)を入れ込んで記入してください。

＜団体＞

① まちづくり協議会の会員を対象に「まちづくりを考える」第１回意見聴取会の運営
② 地域住民や事業者を対象に「まちづくりを考える」第２回意見聴取会の運営
③ 各町内会の協力により住民･事業者を対象に今後のまちづくりを考えるアンケート運営
④ 紙の温度ギャラリーで風景画屏風展の運営
⑤ 名古屋市博物館学芸課　武藤真氏を講師に招いて第３回まちづくり勉強会の運営
⑥ 藤枝市田中城下屋敷・静岡市駿府城二の丸坤櫓視察
⑦ 東浜御殿の紹介動画作成
⑧ 西浜御殿のイメージ図作成
⑨ まちあるきとビジョン作成会議開催・まちづくりビジョン（案）作成
⑩ フォーラムの開催

＜コンサルタント＞

① 第１回及び第２回意見聴取会の運営補助
② アンケート設問の立て方への助言と結果集計分析
③ 風景画屏風展への立会
④ まちあるき同行
⑤ ビジョン作成会議の運営補助・まちづくりビジョン（案）作成補助
⑥ まちづくりビジョンをわかりやすく解説したパンフレット（案）作成補助

第２回意見聴取会

第３回勉強会

※ この様式は公開されます。

2 事業の成果および事業計画全体における今年度の達成度

計２回の意見聴取会とアンケートを通して地域の課題がより鮮明となりました。風景画屏風展や勉強会を通して地域の歴史資産のアーカイブ化の重要性が増し、まちづくりビジョンの検討を通して歴史まちづくりの方向性がみえてきました。作成したまちづくりビジョン案は今後、総会での審議を経てブラッシュアップ後、決議される予定です。
また、コロナの影響下での意見聴取会やオンライン開催となったフォーラムでも、検温・換気・消毒やソーシャルディスタンスに配慮した上で、各発表者から貴重な意見を聞くことができました。

3 事業により見えた課題

地域の歴史資源に関してアンケート結果から「宮宿」「七理の渡し」「魚市場」「丹羽家」に対する認識は比較的高かったものの「東浜御殿」に対する認識は高くありませんでした。また地域に多くの来訪客を迎えるにあたり「ゴミの不法投棄」「交通事故・渋滞」を危惧する声もありましたが全体的に観光まちづくりに対する拒否反応は高くありませんでした。
同時に、人口減少と少子高齢化が進むなか、地域の御困り事として「日常の買い物」「自然災害に対する防災」「公共空間のバリアフリー」に対する不安が特に高いことがわかりました。
一方、幅広い年齢層で「地域での様々な取り組みへ参加意向がある」等の意見が多数あり「熱田の誇りの醸成と継承」の必要性が今回確認できました。

4 今後の事業等の展望

まちの宝であり歴史の記憶に残るような写真や図面等をアーカイブ化し、子供たちに熱田湊の誇りと歴史文化を伝えるための事業を推進します。具体的には案内板の設置、ガイドブックやパンフレットの作成、民間の土地建物を活用したまちの情報提供と観光交流スペースの充実、水上交通を発展させ、堀川を挟んだ歩行者空間を連続化するとともに、レンタサイクルを用いた回遊性の確保などがあります。熱田と名古屋城が江戸時代、政治的・経済的に深い関係にあった、東浜・西浜御殿の史実伝承事業も推進します。来訪者向けの駐車場の整備や熱田湊を体感できるビジターセンター等の整備、歴史文化をより感じられる宮の渡し・大瀬子公園の再生と横断歩道等の整備、魚問屋モニュメントのさらなる活用も検討します。
行政との協議が必要な事業については、当該行政担当者やコンサルタント等有識者の方々との議論を重ね、地域主体・民間活力の活用を目標に、民間資本の導入も含めた様々な角度から検討し、その実現を目指します。
また、買い物や通院が不自由な住民のための送迎事業により、住みよい住環境を整備します。

※ 各欄のサイズ変更は可能ですが、２ページを超えないように作成してください。
※ 用紙の大きさは日本産業規格 A4 とする。

※ この様式は公開されます。